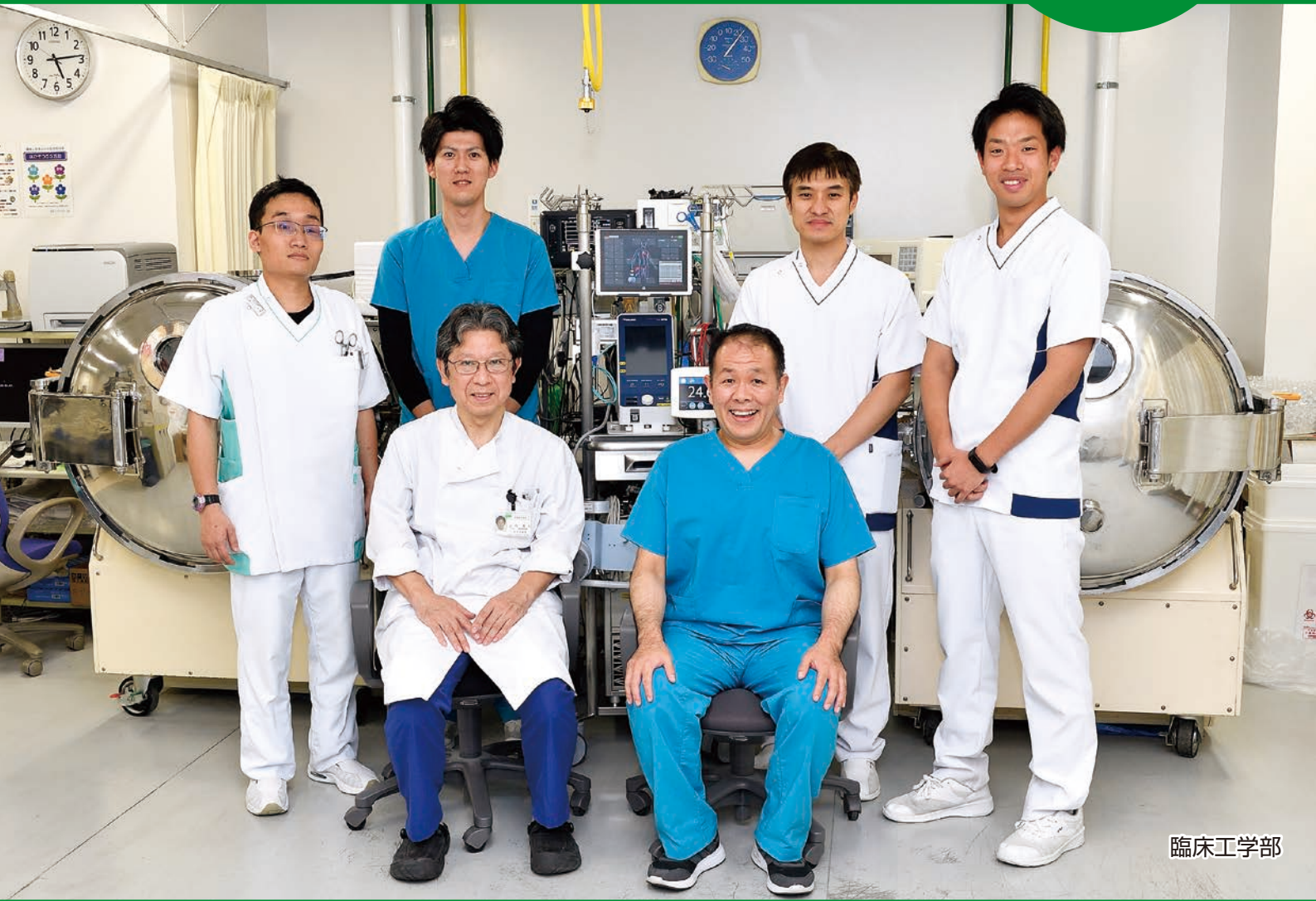


Chiba Rosai News

千葉ろうさいニュース

Vol.25

令和2年1月1日



臨床工学部

目次

2・3

令和2年 新年を迎えて

院長 岡本 美孝
事務局長 鶴殿 泰三
看護部長 青田 孝子



4・5

臨床工学部のご紹介

臨床工学部長 山内 雅人
主任臨床工学技士 長見 英治
臨床工学技士 長見 洋史
臨床工学技士 久我 健
臨床工学技士 小倉 俊
臨床工学技士 堀川 俊之介
臨床工学技士 田口 直人

6

ラグビーワールドカップを終えて

整形外科副部長 守屋 拓朗

7

連携登録医のご紹介

おもて内科糖尿病クリニック

8

当院の理念

令和2年 新年を迎えて



おかもと よしたか
院長 岡本 美孝

新年を迎えて

明けましておめでとうございます。

元号が令和に変わり、初めての正月となりました。どのような新年を迎えられたでしょうか。

昨年、市原市はこれまで経験したことがないような2つの台風、更に大雨と度重なる大きな災害に見舞われました。地球温暖化が背景にあることも指摘されていますが、今後も台風が関東地方を直撃する可能性が増えていると考えられます。また、台風に限らず、大雨による水害、更に近い将来に発生が避けられないとされる大型の地震など様々な災害に対して、周辺の病院、自治会、市原市、産業界の方々とは協力し災害拠点病院として役立てますよう努めて参ります。また、市原市では人口の減少、高齢者の割合の増大が県内でも早いペースで進んでいます。しっかりした経営基盤を保ちながら、高度な医療を担う地域医療の中核病院として機能の維持、向上を目指して参ります。本年から、玄関のロビー、外来受付・待合室の拡張、集中治療室（ICU）など高度な治療が行える病床を拡張する工事が始まります。また、間もなくロボット手術が可能となる手術機材が設置されます。

本年は、夏に東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。千葉県もいくつかの競技の会場になっており、国内外から多くの方々を訪れることと思います。千葉県の、そして県民の良いところを広く知って戴ける絶好の機会ではないでしょうか。平和で安全な社会になりますように、ろうさい病院はその役割を担って参りたいと思います。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

新年あけましておめでとうございます。

昨年4月から当院に勤務させていただいてから、あっというまに年が明けてしまい、自分でも驚いているところです。

昨年の出来事として一番頭に残っていることは、台風15号の影響で職員宿舎を含む地域が停電してしまい、猛暑の中、水も電気も使えない、ゆえに眠ることもできないという過酷な状況の中にあっても、職員のみなさんがプロらしく病院運営に向き合っていたこと、そして停電の日が増すにつれ、皆が疲弊していったことなど、事務局長として非常に心の痛む出来事であったと記憶しています。今後、このような事態にならないことを祈るばかりです。

さて、今年についてですが、4月には診療報酬改定もあることから、他の医療機関と同様、当院も情報収集に努めているところです。併せて昨年の消費税増税の影響もあり、医療機関にとっては非常に厳しい状況が続いていますが、できることを着実に実行できるよう取り組んでいきたいと考えています。

最後になりますが、今年も千葉ろうさい病院らしいパフォーマンスを発揮して地域医療を支えていけるよう鋭意努力いたします。

令和2年が皆さまにとりまして良い年になりますことをお祈りしつつ、新年のご挨拶とさせていただきます。

近年、「地域包括ケアシステム」という住み慣れた地域で自分らしい暮らしを、人生の最後まで続けることが出来るよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供されることが求められ、当院も様々な取り組みをおこなってきました。今後さらに療養の場が、病院から暮らしの場へと変わってくる中、私たちは「どのような健康状態であっても自分らしい生活を送りたい」という意思を尊重し、実現するための重要な場面への関わりが増えてくると認識しています。「ときどき入院、ほぼ在宅」が表すように、病院は自宅に戻るため、いつもの生活をするために必要な医療を受ける場所であり、患者さんにとって「非日常」です。そのため「退院支援・在宅療養移行支援を院内に定着させる」を意識したシステム作りをこれからも進めていきます。今後病院は医療の提供とともに、「生活の場」を意識した対応がより一層求められ、安心してご自宅へ退院できるよう支援体制の充実が必要となってきます。その中でも退院調整や退院後在宅訪問など、多岐に亘る場面を通じてますます看護師に求められる役割が拡大しています。当院では入院時あるいはもっと早い入院前の段階から、「患者に寄り添う看護」を実践するため、PFM（入退院・患者支援センター）の取り組みを今年も進めていきます。今まで以上に多職種と協働・連携して切れ目のない地域のニーズに合わせた柔軟な対応を展開していく所存でございますので、今後ともご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



事務局長
鵜殿 泰三
うどの たいぞう



看護部長
青田 孝子
あおた たかこ

臨床工学部

当院の臨床工学部の歴史と役割



やまのうち まさと
山内 雅人 (循環器内科部長 兼 臨床工学部部長)

2006年10月循環器科設置・PCI体制づくりのために、長見主任技士が赴任しIABP・PCPSの導入、準CCU体制整備が進み、人工呼吸器は中央管理となりました。

2007年には臨床工学部となって、心臓カテーテルやペースメーカー植え込みなどの循環器診療へのチームとしての参加や、伝統の高気圧酸素治療、医療機器の管理のみでなく、他の治療への貢献も目覚ましく、CHDF等の血液浄化法も含めて、プラズマアフェレーシスやG-CAP等、それまでは業者に頼って、臨時対応的に行っていたものが、臨床工学部で行えるようになりました。2013年の診療棟移設と共にICUが整備され、病院としての重症管理体制も整うに従い、症例数は飛躍的に増加し、集学的な複雑な対応を要する症例もふえており、臨床工学部なしの重症管理は考えられなくなっています。手術時のナビゲーションシステム等、新しい治療手段の導入にも関わり、病院の診療レベル向上は、臨床工学部の設置・発展に支えられてきたとも言えます。

現在スーパーICUの設置に向けて準備中で、臨床工学技士の当直体制の構築が必須であり、臨床工学技士の増員は最重要の課題となっています。

臨床工学部の紹介



ながみ えいじ
長見 英治 (IBHRE^{*1}、CDR^{*2}、臨床ME専門認定士^{*3}、ITE^{*4}、呼吸療法認定士^{*5}、透析技術認定士^{*6}、高気圧酸素治療専門技師^{*7})

近年の医療で特に手術室などでは医療機器がなければ高度な医療技術が担保できません。そのような中、1988年4月1日に医療国家資格として臨床工学技士が誕生しました。その業務は、生命維持管理装置・医療機器の操作は当然として、装置がいつでも安全かつ正確に作動するように管理・保守点検およびトラブル対応も重要な役割となっています。当院の臨床工学技士は、外来や病棟さらに心臓カテーテル治療室や手術室および集中治療室だけでなく患者さんの急変時にも駆け付けAEDの配備、人工呼吸器やECMO(体外式模型人工心肺装置)を速やかに導入するための医師のサポートなども行っております。また在宅での経静脈栄養ポンプや超音波骨折治療装置の操作方法の説明も患者さんに実施しております。さらにはペースメーカー外来チェックも実施しております。このように、幅広い各業務を探求するために積極的に各学会で発表・参加および各分野での認定資格も取得し、今後導入される新しい医療機器を用いた医療技術にも対応できるように日々研鑽を積み当院の発展に寄与してゆく所存です。

手術室業務・ラジオ波焼灼術(RFA)



くが ひろし
久我 洋史 (臨床ME専門認定士^{*3}、ITE^{*4}、呼吸療法認定士^{*5}、高気圧酸素治療専門技師^{*7})

手術室業務は、麻酔器点検やペースメーカー植込み術のほか、術中イメージングシステム(O-arm)や3Dナビゲーションシステム(Stealth Station S7)などを用いた整形外科、耳鼻咽喉科、脳神経外科、形成外科の手術の際にCT画像やMRI画像とマッチングした3D画像ナビゲーションを駆使した手術のサポートを行っています。また今後は手術支援ロボットのda Vinciの導入も予定されており、当院の手術室の安全と技術向上に努めています。

ラジオ波焼灼術(RFA)とは肝臓にできた悪性腫瘍を超音波(エコー画像)で観察しながら、電極針を腫瘍の中心に挿入し、ラジオ波という電流を針の周囲に流すことで発生するジュール熱で腫瘍を壊死させる治療法です。当院では主に消化器内科より依頼され年間約30例ほどですが臨床工学技士は医師の指示のもと装置の操作および患者さんの状態のモニタリングなどを実施しています。

認定資格

- *1 International Board of Heart Rhythm Examiners (IBHRE) 認定
CERTIFIED CARDIAC DEVICE SPECIALIST ALLIANCE PROFESSIONAL
- *2 不整脈心電学会認定 Cardiac Device Representative (CDR) : 1名
- *3 日本生体工学学会・日本医療機器学会合同認定 臨床ME専門認定士 : 2名
- *4 日本心血管インターベンション治療学会(CVIT) 認定 心血管インターベンション技師(ITE) : 3名
- *5 3学会合同認定 呼吸療法認定士 : 4名
- *6 透析療法合同透析専門委員会認定 透析技術認定士 : 2名
- *7 日本高気圧環境・潜水医学会認定 高気圧酸素治療専門技師 : 4名

のご紹介

循環器業務・補助循環業務・在宅治療指導業務



おぐら たけし
小倉 健 (ITE*⁴、呼吸療法認定士*⁵、高気圧酸素治療専門技師*⁷)

循環器業務は心臓カテーテル業務、RI心臓負荷検査および植込み型心臓デバイス（CIEDs）関連業務があります。心臓カテーテル業務では検査・治療に使用する装置の操作、管理を行い、検査・治療中は患者さんの状態変化をいち早く発見できるよう心電図、血圧といった生体情報をモニタリングしております。時に、急性心筋梗塞症例など心肺停止に至ってしまった症例では補助循環装置を用いた体外循環（経皮的な心肺補助：VA-ECMO）、重症呼吸不全症例に対して行われる体外循環による呼吸補助（VV-ECMO）の導入サポート、管理をチーム医療の一員として行っております。CIEDsは徐脈性不整脈にはペースメーカー、致死性不整脈には植え込み型除細動器、重症心不全に対しては心臓再同期療法（CRT-P/D）、原因不明の失神に対しては植え込み型ループレコーダ（ILR/ICM）と多種にわたっており、外来チェック、遠隔モニタリングシステムを用いたデバイス管理、手術や内視鏡検査などの際の設定変更（電気メス対応設定）や最近では条件付きMRI撮像が可能なCIEDsを植え込んでいる方のMRI撮像時の設定変更も循環器医師の指示の下行っております。

また、心不全治療においては非薬物療法かつ心不全患者さんの再入院を減らす治療の一つである在宅でのNPPV（非侵襲的陽圧換気）療法の院内での装置配備と導入サポート、同様に経静脈栄養ポンプや超音波骨折治療など在宅にて医療機器を用いる患者さんに対して操作方法の説明も行っており、患者さんのQOL改善のために日々精進しております。

集中治療業務・高気圧酸素治療業務



ほりかわ しゅんのすけ
堀川 俊之介 (呼吸療法認定士*⁵、高気圧酸素治療専門技師*⁷)

集中治療室（ICU）では、患者さんの呼吸・循環動態が急激に変化する可能性があるため、注意深い観察や迅速な判断が重要となります。心原性ショックや心不全、肺水腫に対しては観血的動脈圧およびSwan-Ganz法による血行動態のモニタリングが治療方針の決定に有効で、近年のモニタリング技術の進歩により、圧情報や混合静脈血酸素飽和度、心拍出量の連続測定が可能となり、重症患者さんのより厳密な循環管理が可能となっています。当院でもEV1000やビジランス、ビジレオなどの様々な循環動態モニタリングを導入し、ICUに入室したECMOや人工呼吸器および血液浄化療法など高度医療機器が装着された患者さんの対応も行っております。

高気圧酸素治療は、専用タンクに入り大気圧より高い気圧環境下で、酸素を吸入することで、溶解型酸素（ヘモグロビンおよび血液中に酸素を溶け込ませること）の増加と気体容積の圧縮により、治療効果を発揮し、突発性難聴、脊椎炎、腸閉塞、一酸化炭素中毒などの様々な病態に適応があります。また当院は市原市で唯一、肉離れや捻挫などのスポーツ外傷に対して高気圧酸素治療を実施できる施設です。当院の高気圧酸素治療は昭和40年11月から実施し、平成25年10月には治療中に心電図や血圧、呼吸数などを監視できる生体情報モニタリングを設置し、より安全な治療を目指しています。

人工呼吸器業務・血液浄化業務



たぐち なおと
田口 直人 (透析技術認定士*⁶)

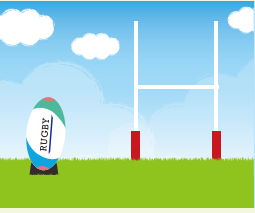
人工呼吸器は、呼吸機能を代行する生命維持管理装置であり、装置の異常や人工呼吸回路の誤接続は直ちに患者さんの生命に関わります。当院では、小児から成人まで対応した人工呼吸器を配備しており、臨床工学技士は導入時の立ち会いや使用前の点検および定期点検さらには使用中の安全確認の点検も行っております。トラブル発生時は、夜間休日を問わず24時間に対応しております。

血液浄化業務は急性腎不全、敗血症ショック、薬物中毒、自己免疫疾患などに対し血液透析療法（HD）、持続的血液濾過透析療法（CHDF）、血漿交換療法（PE）、血液吸着療法（PA）、二重膜濾過血漿交換療法（DFPP）、エンドトキシン吸着療法（PMX-DHP）など重篤症例に対して主にICUで行っております。一方で外来や病棟にて、肝疾患による腹水を採取し、がん細胞や細菌を除去し、有用な成分を回収する腹水濾過濃縮再静注法（CART）や、潰瘍性大腸炎の患者さんに対し顆粒球を選択的に除去する顆粒球吸着療法（G-CAP）など社会復帰している外来症例にも血液浄化を施行しております。

ラグビーワールドカップを終えて

地域のスポーツ活動を支える基幹病院として

整形外科副部長 守屋 拓朗



ラグビーワールドカップ（RWC）2019日本大会が、この9月から11月まで開催され、大会は大成功を収めました。私は2012年から2019年4月まで日本代表チームのチームドクターをつとめ、2019年4月からはラグビーワールドカップ組織委員会Medical Advisory Group Medical Officerとなり、大会運営の医務責任者の一人として大会運営に関わりました。また、千葉県ラグビー協会にもRWC医務等安全対策特別委員会を設置し、ラグビー協会の一員として、公認キャンプ地である市原市と浦安市、事前キャンプ地である柏市の医務関連のサポートも行っていました。

市原市は公認キャンプ地として、9月にラグビーの強豪国であるアイルランド代表チームを受け入れました。チームは市原の誇る世界最高レベルの芝生をもつスポレクパークにて練習を行いました。当院はその後方支援病院としての役割を組織委員会より委嘱され万全の体制にてサポートいたしました。ご支援いただいた関係スタッフ・市原市の皆様には心より感謝申し上げます。

当院には主要な診療科に加え、診療科横断的なスポーツ医学センターが設置されスポーツに特化した診療も行っております。日本スポーツ協会公認スポーツドクターが9名在籍し（非常勤医含む、整形外科・脳神経外科・重症救命科・形成外科）、スポーツドクターを志す若い医師・研修医も多く在籍しています。薬剤部にはスポーツに関する研修を積んだ薬剤師であるスポーツファーマシストが在籍し、アスリートのアンチドーピング活動にも対応しています。

今回のラグビーワールドカップから当院は、最新のスポーツ医学、地域の基幹病院としてプロスポーツチームを支える役割、それを実行するためのシステムと人員配置、この3点を経験しました。これを基に今後も千葉市南部・市原のみならず南房総にかけての基幹病院の一つとして、スポーツイベントおよびチームを支援していきたいと考えています。

私個人としては、チームドクターとして最新のスポーツ医学を選手・チームへと提供してきましたが、それに加えて大規模スポーツイベントの運営に関わった経験が地域の皆様のお役に立てるのではないかと考えています。

2020年は、オリンピック・パラリンピック2020東京大会が開催されます。千葉市でも複数の競技が開催され、千葉県内では多くのチームのキャンプが行われる予定です。ラグビーでは2019年と同様にスーパーラグビーに参戦するサンウルブズが市原市を本拠地として活動いたします。

これらの活動を地域の皆様とともに手を取りあいながら「One Team」となって支援することは、当院はもとより、地域社会および住民の皆様のレガシーとなると信じています。スポーツと医療という切り口から地域の皆様のお役に立ちたいと思いますので、何かご要望がございましたらぜひご相談ください。どうぞよろしくお願いたします。

連携登録医のご紹介

おもて内科糖尿病 クリニック

おもて 院長 表
けいすけ 敬介 先生



表 敬介 院長

平成31年4月市原市ちはら台に、ろうさい病院での勤務を経たのち開院しました。当院は腎臓、循環器、糖尿病治療に力をいれており、特に腎臓領域では、県内では珍しく腹膜透析、血液透析にも対応できる体制も備えております。また、腎臓が悪くなってきてしまった方への駆け込み寺となれるように医師、看護師、事務、栄養士による腎臓病チームをもって、今後取得すべき保険や医療費補助、食事療法など全般的にサポートする腎代替療法選択外来という専門外来も設けています。

通院される方は様々な背景を抱えられてこられており、専門医としての治療をすることはもちろんですが、家庭や仕事の生活状況などを踏まえた上で、納得でき、継続できるようにこころがけて診療いたしております。

ろうさい病院には、循環器・腎臓領域を中心に現在も週1回の外来を担当させていただいております。中からみても本当に素晴らしい病院で、各科の先生方の熱意は他に類をみず、当院にかかられている患者さんで高度な検査や治療が必要になった際には、迷わずに紹介させていただいております。患者さんが安心してかかれるろうさい病院との連携を図りながら、地域医療を担っていきたいと考えます。皆様今後ともよろしくお願いたします。

おもて内科糖尿病クリニック 診療案内

〒290-0141 市原市ちはら台東8-17-4

電話番号 0436-52-8011

診療科目 一般内科・循環器内科・腎臓内科・糖尿病内科・内分泌内科・アレルギー科・人工透析

診療時間		月	火	水	木	金	土	日	祝
午前	9:00~12:30	○	○	○	○	○	○	休	○※
午後	3:00~6:30	○	○	○	休	○	休	休	休

※祝日は人工透析のみ

千葉ろうさい病院 理念

基本理念

私たちは、地域の人々、勤労者の方々に高度で安全な医療を提供します。

基本方針

1. 患者の権利を尊重し、安全で質の高い医療を提供します。
2. 急性期医療・予防医療を担い、基幹病院として地域医療に貢献します。
3. 働く人々の健康を守り、社会復帰を支援します。
4. 豊かな人間性と高い技能を備えた医療人の育成をはかります。
5. 明るく向上心に満ちた職場をつくります。



クリスマスイルミネーション（中庭）

千葉ろうさい病院では、12月2日にクリスマスイルミネーションを設置しました。当院を利用される方々に少しでもクリスマスらしい雰囲気を感じていただけたらと思います。

編集 後記

年末年始の時期は紅白歌合戦やニューイヤーコンサートの放送など様々な音楽特番が放送されます。我が家にはギター、ベース、ドラムがあり、流れるヒット曲などを即興で演奏するのがここ数年私の趣味になっております。音楽は人の心を豊かにするといわれますが、世界では「音楽療法」として実際に人々の心身の健康のために使用されているそうです。しかし医学的根拠が乏しく日本緩和医療学会ではtherapyではなくserviceの位置づけになっていることを問題としています。私は元気がでた、不安が和らいだ「気がする」であったとしても十分音楽は意味があるものと考えており、個人的に音楽療法は今後注目していきたい分野のひとつです。

富岡 太一（薬剤部）